

介護予防事業への取り組みと地域連携(第2報)

～セラピストとしての視点から～

- 1)医療法人清仁会 水無瀬病院 リハビリテーション部 理学療法士
- 2) 同・言語聴覚士
- 3) 同・作業療法士
- 4) 大阪府島本町地域包括支援センター

○深谷淳1) 内田舞子1) 倉橋利成2) 五十嵐大二3) 石田頌子4) 大辻 泉4) 大西里果4)

はじめに

当院は島本町唯一の病院である。本町でH17年度から取り組む介護予防事業に対し、H21年度から当院セラピスト（PT:理学療法士、OT:作業療法士、ST:言語聴覚士）が実施してきた取り組みを報告する。

セラピストが実施した取り組み

- ① 年2回のおさらい月間を通じ、体操を安全・安心・効果的に行えるよう住民、環境、保健師に対し支援した
- ② 医療リハビリテーション(以下:医療リハ)から介護予防を含む生活リハビリテーション(以下:生活リハ)への連携方法の実践—連絡表の活用—

取り組み①

-おさらい月間-

PT OT ST

支援

支援

情報共有
支援

支援対象は本活動
に関わるもの全て

住民(個別・全体)



- ・正しい体操、姿勢
- ・痛みの対応
- ・個別評価→介入
- ・評価、測定
- ・サポーターへの技術支援

環境(全36カ所)



- ・会場設営
- ・手すりの設置
- ・椅子の構造や高さ

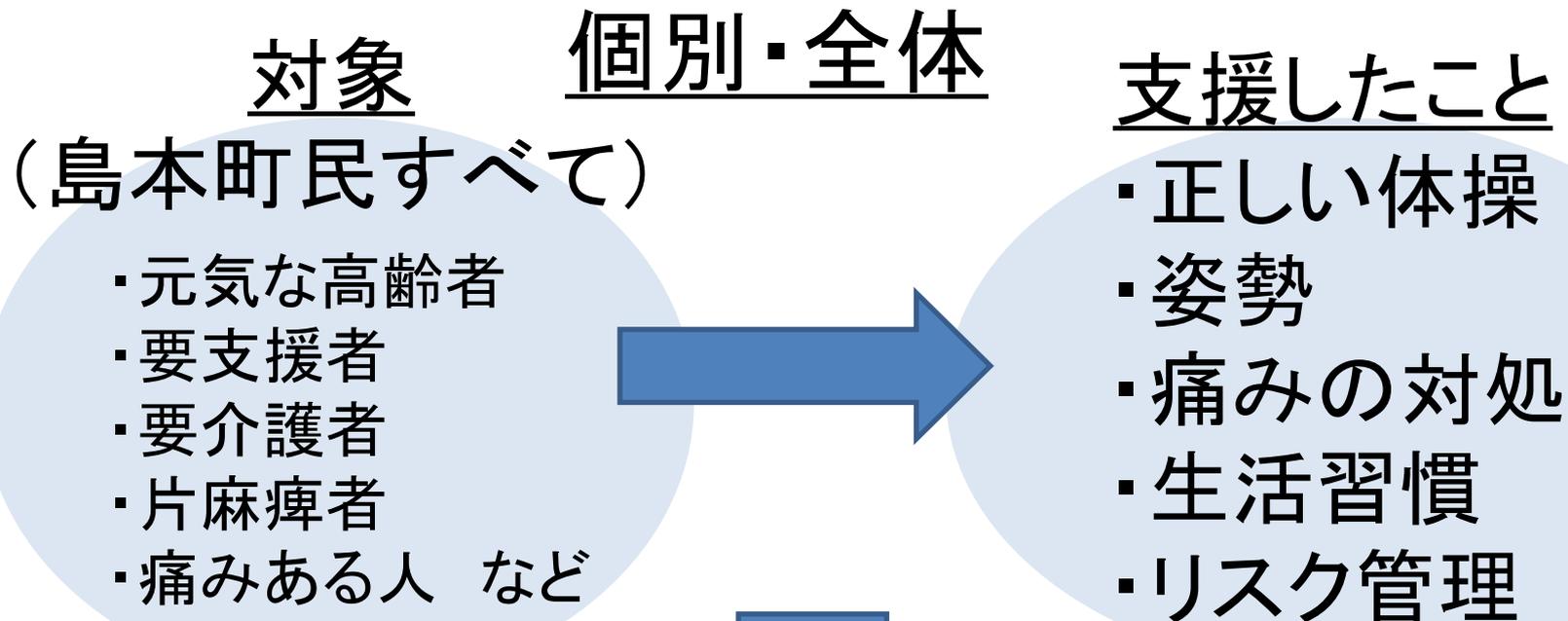
保健師



- ・体操指導
- ・アンケート
- ・評価、測定
- ・反省会

取り組み① -住民に対して-

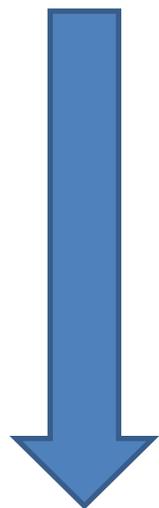
安全・安心・効果的に実施するために



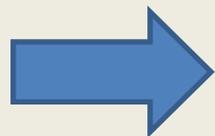
誰でも安全・安心・効果的に取り組める！

結果

-セラピストへの声-



住民の声



「このやり方やったら痛くないわ」
「痛みのおことが聞けて安心した」
「正しいやり方を教えてもらった」

保健師の声



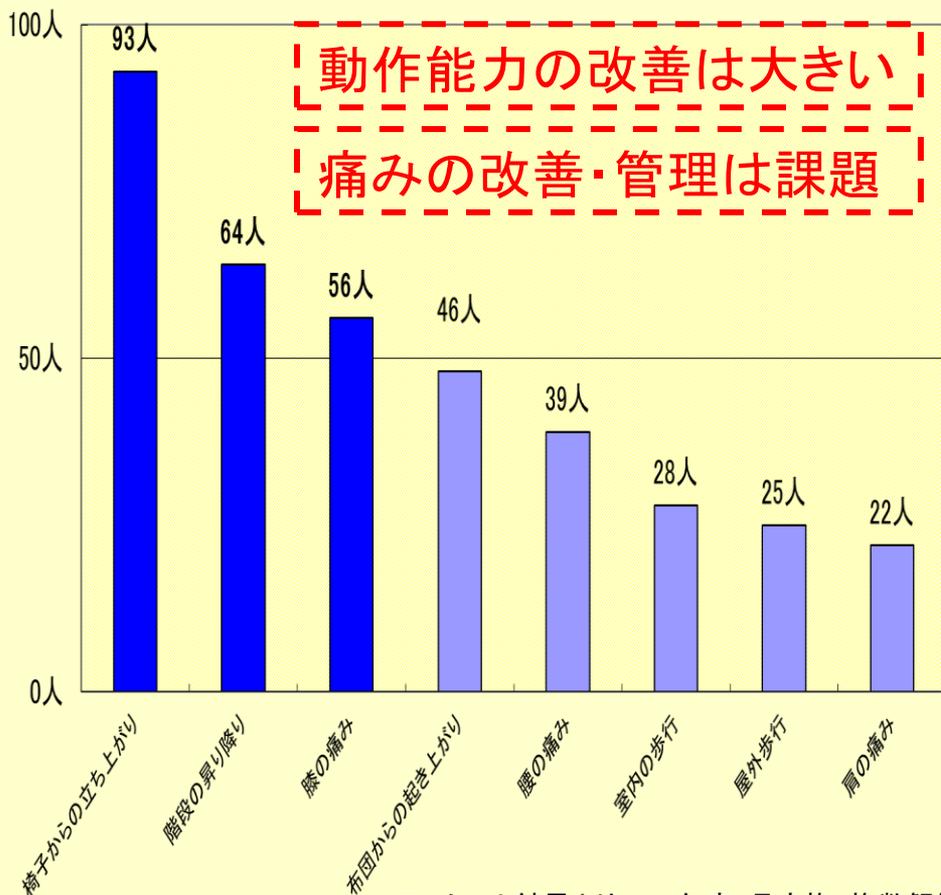
「セラピストにつなぐことで痛みのある人や
麻痺がある人の支援が行いやすくなった」

結果 -運動機能-

主観的評価 アンケート結果より

客観的評価 Timed Up & Go

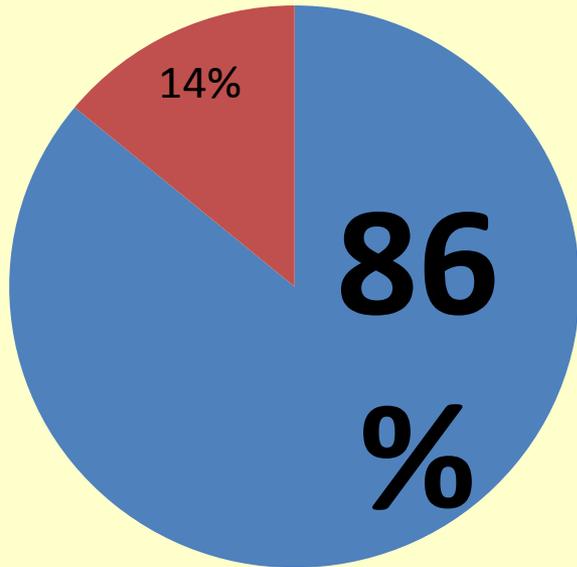
参加し始めた頃との比較して良い変化のあった部分(H25.7)



結果 -社会参加-

Q:外出は？

- 楽しみ
- どちらでもない・楽しみでない

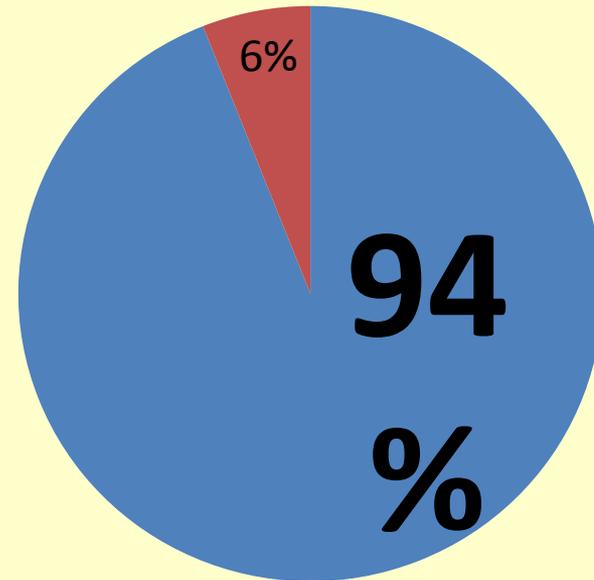


外出が楽しみ

アンケート結果より:H25年度7月実施

Q:みんなと会うことは？

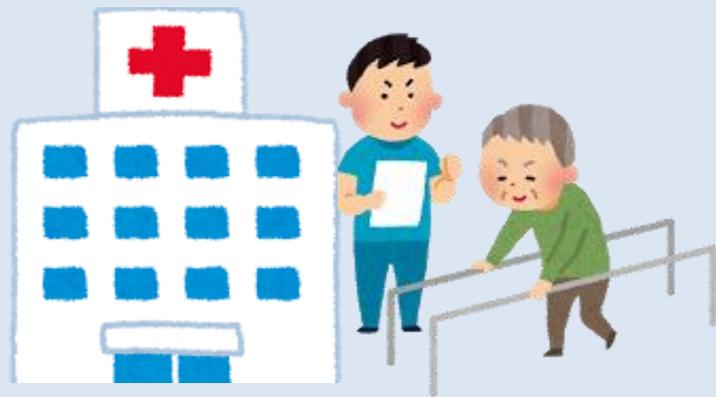
- 楽しみ
- どちらでもない・楽しみでない



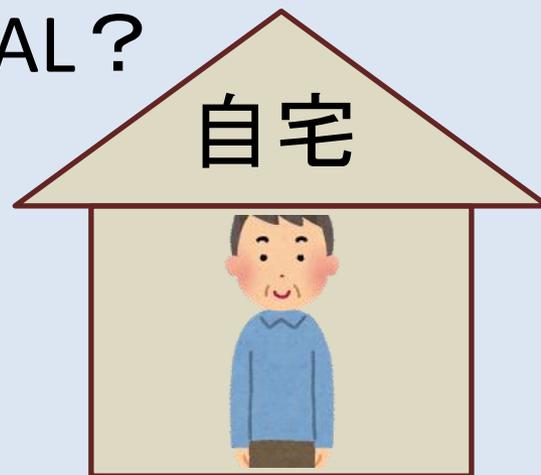
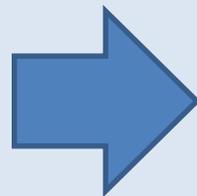
みんなと会うのが楽しみ

アンケート結果より:H25年度7月実施

介護予防事業は継続する事が大事

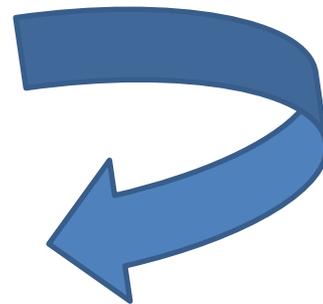


これがGOAL？



今まで参加していた住民が...入院、手術...自宅復帰できてよかった...

もう一度、体操に通いたい！
でも不安...脱臼したら...こけたら...
もう少しゆっくりしてから...



少しの後押しと連携で上手くいくことも多いです

取り組み②

医療リハから生活リハへ -連携-

医療リハからの関わり

セラピスト



対象者(入院患者・外来患者)

安心

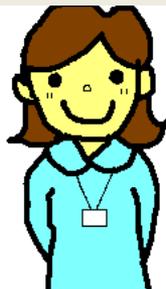


- ・連絡表で紹介
- ・同行依頼

会場



保健師



- ・連絡

連絡表の作成

担当:

平成 年 月 日

島本町 いきいき・かみかみ体操
～参加連絡表～

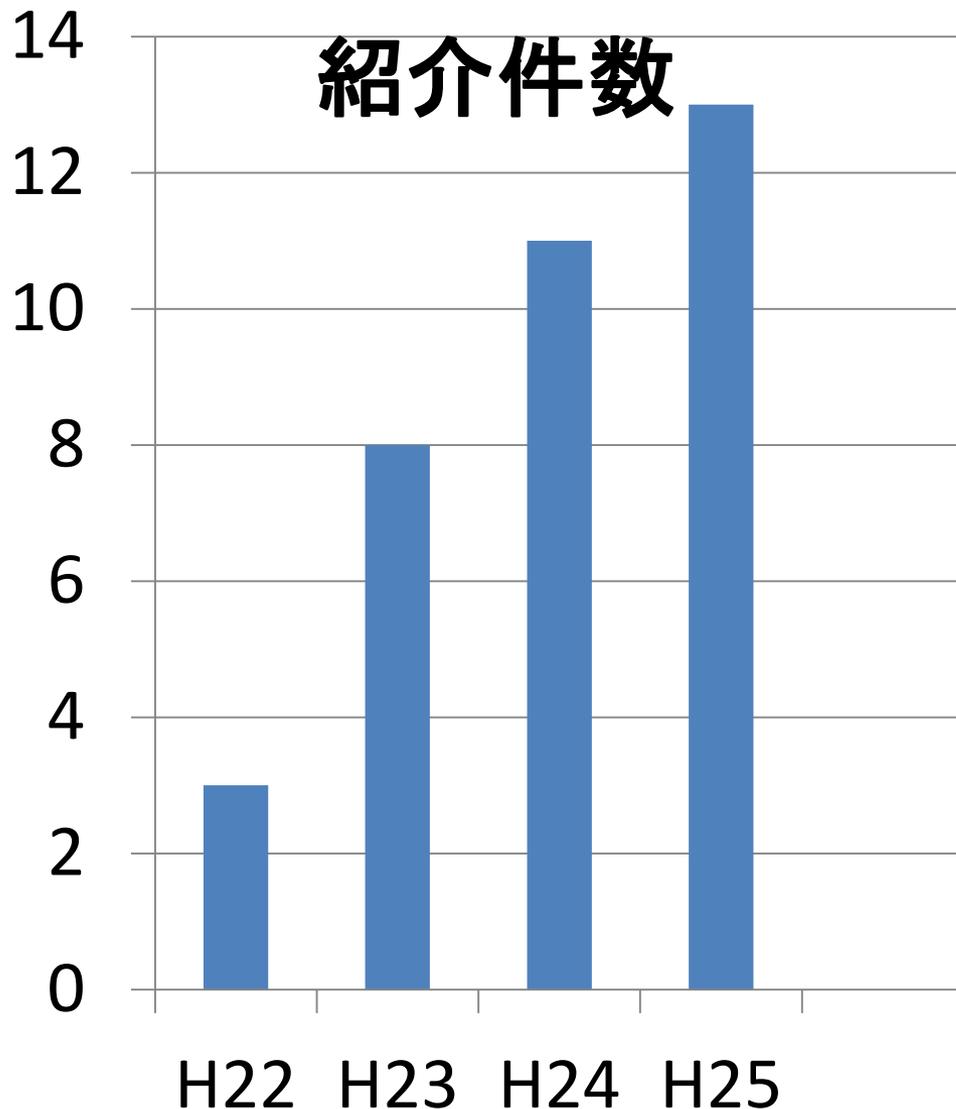
氏名	ふりがな		年齢
	男	女	
住所・TEL	三島郡 島本町 075-962-		
診断名			
体操の注意点			
参加履歴	初めて	継続	
会場名			
参加開始日			
移動手段			
保健師の介入	代表者へ連絡	同行	自宅連絡
目標			

いつまでも「いきいき」と♪

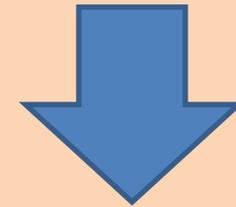
元気に！！



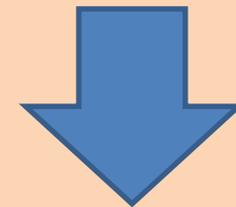
結果 -連絡表紹介件数-



紹介件数は年々上昇



セラピストの生活リハ
へつなぐ意識が向上



シームレスな
リハビリテーションへ

まとめ・考察・課題

取り組み①に関して

- ・セラピストは元気高齢者の体操支援だけでなく、より専門的視点が必要な要介護者や痛みを抱えている住民への支援が求められた。
- ・そのため、保健師との事前打ち合わせや反省会で支援方法を共有、検討した。
- ・結果、運動機能と社会参加双方にとって効果的な取り組みとなった。
- ・今後、住民がより安全、安心、効果的に体操を実施できるよう保健師と協働し、「痛み」に対しての支援方法をしていく。

取り組み②に関して

- ・連絡表を用いることで安心して介護予防事業へ参加、復帰できる。
- ・実践から4年経過し、年々、紹介件数が増加していることはセラピストの「つなぎ」の意識が向上しているものとする。
- ・今後、紹介件数の増加を目指すとともに、他地域での連携方法の考案についても検討していく。